

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

ホームページ <http://shakaitsushin.cool.coocan.jp/> e-mail: shakaitsushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八―二一九〇四 電話・FAX(03)3299-5367

郵便振替 〇〇一〇〇―九一五八四三一 労金 中央労金本店 No.1154163

〈もくじ〉

■ 巻頭言 ■

ウクライナ戦争

滝野 忠 : 2

JR 東日本の

「会社始まって以来の変革」とは何か(上)

森 勉 : 3

先進諸国における社会主義は

―エンゲルスから核心を学ぶ(3)―

原野人 : 8

◇ 待望の書 ◇

『牙を抜かれたマルクス主義』

山下 俊幸 : 10

―斎藤幸平とマルクス・向坂・資本論(原野人著)のすすめ―

読者からのおたより

..... 11

旬刊 社会通信

NO.1360

二〇二二年五月一日

二〇二二年五月一日発行
(毎月一日・一五日二回発行)

ウ ク ラ イ ナ 戦 争

『世界臨時増刊』（2022年4月14日）は、「ウクライナ侵略戦争―世界秩序の危機」を特集する。裏表紙の「刊行にあたって」は、こう読者に呼びかける。

「なぜ」。

2022年2月24日、衝撃とともに、世界はこの疑問詞で埋め尽くされた。

なぜ、ロシア軍はウクライナ領に無軌道な攻撃を開始したのか。

なぜ、極端な言説が暴力を正当化する光景が繰り返されるのか。

なぜ、市民が住処を、生活を、家族や知人との繋がりを、壊されなければならないのか。

そして、なぜ、またしても人が人を殺し、殺されねばならないのか。

しかし、開戦から約50日。

日々、塗り絵のようにウクライナの戦局を示す地図を見、ロシアの苦戦とウクライナの「健闘」を聞きながら、いつのまにか、わたしたちの心から「なぜ」が消えそうになっていないだろうか。

岩波文化の真骨頂であるヒューマニズムと進歩主義があふれる。プーチンの侵攻は不正義であるから、大賛成である。残念なことが一つある。なぜ戦争が起きるのか、その原因を考えようとの呼びかけもほしかった。戦争をよくいう人はだれもいない。しかし、くり返される。21世紀、理性が暴力にうちかち、かならず平和と協調の時代がくると、多くの進歩主義者、リベラリストが信じていただけになおさらである。

ぼくはスペイン人民戦線（1930年なかば）、チリ人民戦線（1970年代はじめ）で世界の階級闘争、世界政治を学んだ。そのなかで、戦争にも正義の戦争と不正義の戦争があることも学んだ。スペイン、チリの労働者は新しい国づくりに立ち上がった。スペイン人民戦線はドイツのファシスト勢力、チリ人民戦線はブルジョア民主主義を至上の価値観とするアメリカが、労働者階級の民主主義を武力で押し殺した。スペイン、そしてチリ労働者のたたかいは正義であり、ドイツ、アメリカの介入、戦争は不正義である。

ロシアがウクライナに攻めこんだ。ロシア、そしてウクライナは資本主義国、ウクライナは旧ソ連最大の共和国でもある。プーチンは「ロシア復興」をめざす。ウクライナはファシズムよりスターリンがもっと悪いとNATOに接近する。米国・EU NATO連合軍がウクライナを支援する。

ロシアは新しい資本主義国、EU・米国は古い資本主義である。資本主義の発展は不均等である。21世紀、新しい資本主義国の中国、インド、南アフリカ、ロシア等は生産力を発展させた。今の世界秩序は古い資本主義国がつくった。新しい資本主義国の力は大きくなった。国際体制をめぐる闘争である。

戦争の性格は新しい帝国主義ロシアと古い帝国主義国と同盟軍との帝国主義戦争である。

ウクライナを戦場とする帝国主義戦争は「終戦」の気配はない。ヨーロッパ大陸のど真ん中で新兵器の実験場となっている。スペインの戦争（スペイン市民戦争）がそうであった。その先に第二次世界大戦があった。そして、日本発の戦争も。（滝野 忠）

J R 東日本の

「会社始まって以来の変革」とは何か（上）

1、はじめに

J R 東日本の2021年度決算が間もなく（4月末）公表される。会社は、新型コロナの影響で前年度に続く連続の業績赤字を公表することになるだろう。すでに、「業績赤字」「借金が増えた」との会社主張は2022年春闘要求に対する団体交渉でも行われており、ここ当分はこの赤字宣伝が、労働組合の要求の前に立ちふさがることになりかねない。

しかし、J R 東は民間会社であっても、地域的な独占企業であり、国民の足＝公共交通を担っている以上、多少赤字であっても列車は走らせなくてはならない。列車を走らせるには働く人がいるわけで、会社は、労働者が安心して労働・生活できるように賃金を支払わなくてはならない。また、安全のための投資であれば借金をしてでも必要だが、品川開発や新宿駅ランドターミナル構想などビッグプロジェクト（2022年度グループ年次計画）などは凍結・延期・縮小することが可能であり、借金までして進める必要はない。

会社はコロナ禍の前から、生産年齢人口の縮小（＝少子高齢化）による鉄道収入の減少を憂い、「変革」「生産性向上」による「企業収益力の強化」を目指してきた。そして、国鉄採用世代がJ R 本体からいなくなるこの機会に、J R 東日本をこれまでとは違う新しい会社に作り替えようとしている。

この4年間のJ R 東をめぐる労使関係・合理化提案から、この内容を考えてみたい。

2、J R 東日本会社の情勢認識を、我々はどのように理解していくか

①2018～2019年（東労組の大量脱退劇と深澤社長就任、「変革2027」発表）

この頃の労使関係と主な合理化提案（支社提案は含まない）

（傍線は、筆者による）

2018年（平30） 2月9日…J R 東労組「格差ベア根絶」を理由にスト準備指令。

2月16日以降、数日おきに富田哲郎社長名による「社員の皆さんへ」の発表とともに、会社幹部による現場点呼立ち合いなど会社の攻撃。数百名規模での東労組脱退が続き、2月24日東労組はついに争議解除（＝白旗）。

同年 2月26日…J R 東、「労使共同宣言」の失効を東労組に通知、3月29日 東日本ユニオンとは合意解約。

同年 3月5日…JR東、「保線部門におけるメンテナンステ体制の最適化について」提案。

同年 4月1日…JR東、深澤祐二社長就任。「これからの30年を見据えて新しいスタートを切るにあたり、究極の安全を追求、新しい成長戦略、業務改革と生産性向上を課題」にするとした「社員の皆さんへ」を発表。以降、東労組の大量脱退により過半数労組がなくなった職場で、会社は36協定締結のため、御用組織「社友会」を組織するとともに、過半数労働者代表選出に向けた選挙を行う。国労組合員もいくつかの職場で立候補し、会社側候補と激しい選挙戦を闘う。

同年 5月17日…「乗務員勤務制度改正」を提案。

同年 7月3日…JR東日本グループ経営ビジョン「変革2027」発表。

2019年（令和）3月8日…「駅の変革について」提案。

同年 3月28日…「新たなジョブローテーション」提案（車掌・運転士試験の廃止等）。

同年 5月 …「在来線電車の保全体系見直し（検査周期延伸）」を提案。

同年 7月24日…「ワンマン運転の拡大」を提案（1〜2両編成から7両以上編成の場合もあり）。

同年 12月18日…「働きがいの向上のための制度見直し」（初めて「業務改革、働き方改革、職場改革の3つの改革」というフレーズ登場）。

☆2018年2月から2ヶ月ほどの間に、実に2万数千名にもぼる脱退者を出させて東労組を壊滅状態に追い込んだJR東日本は、4月1日新たに就任した深澤祐二社長名で5月17日「社員の皆さんへ」を発表した。会社はこの中で、

ア、本日、各労働組合に「乗務員勤務制度改正」を提案した。「柔軟で、多様な働き方」については今後乗務員以外の業務にも進める。

イ、車両・保線・電気などのメンテナンス部門において、車両や設備の状態に応じて保守を行う「CBM」の導入を進める。これによりメンテナンス業務の効率性が向上するとともに故障等の予兆を事前に把握できるようになる。

ウ、今後は、自動運転技術の開発、職場再編の検討を進める。

エ、大きな変化と変革の時代にあり、時間軸を意識し、スピード感をもって自らを変革する必要がある・・・社員が自らの意欲を発揮し、仕事を通じて成長と充実感を得られるよう・・・

などと、最後は当時、会社が愛用していた慣用句で締めくくりながら、当面の施策を明らかにした。

異例であるのは、社長名で今後の合理化計画についてかなり詳細に述べ、しかも意気揚々と発表していることだ。今や社員の多数派になった組合未加入労働者に直接、社長が呼びかける形である。

“労使共同宣言を基軸にした東労組との癒着体制”と“極左集団に牛耳られた東

労組が社員の多数を占める異常な組織環境”とは、会社にとっていつかは清算しなければならぬ大きな壁であった。攻撃のきつかけこそ、東労組自らによる無理なストライキ設定であったにしても、これを実現した会社の自信がうかがわれよう。

その意味では、JR東日本にとって、分割民営化（国鉄改革・JR会社発足）後の30年を終わらせた「新たな時代へのスタート」（2018年3月29日 富田哲郎社長と東日本ユニオンとの「労使共同宣言」合意解約文書、4月1日深澤祐二社長名での「社員の皆さんへ」）であり、東労組を利用した国労排除の労務政策から、労働組合不要論・東労組切り捨て、「会社と社員」を軸にした職制に基づく（上司と部下の）命令と服従の職場専制支配の始まりである。否、社員には「命令」とか「服従」とか「専制」等の暗い気持ちを感じさせず、「社員が自ら意欲を発揮し、仕事を通じて成長感と充実感を得られるよう」な外見と体裁を作り、「仕事のやりがい搾取」を強めていこうとするものである。

☆会社は2018年7月「経営ビジョン変革2027」を発表し、深澤社長が「これまで30余年とは違った新たな企業グループに生まれ変わる」（2018年9月「JRひがし」No.376）と公言しているように、「業務改革・生産性向上」を旗印にした息もつかせぬほどの「変革」「制度改革」（＝合理化施策）提案の嵐が職場を覆うようになった。より少ない要員体制で営業利益をさらに増やそうと企んでいるから、その無理なしを寄せはJR現場で働く労働者、関連労働者の労働強化へと向かわざるを得ない。それは、鉄道の安全やサービスの低下にも直結している。「生産性向上」＝人減らし合理化に反対する国労の姿勢・役割が大切になってきている。

☆JR東日本は2019年3月28日に提案した「新たなジョブローテーション」において、「変革2027の背景」を説明。生産年齢人口の縮小による鉄道収入の減少とともに、社員の約4分の1を占める国鉄採用世代約1万4500名が今後5年間でJRを去る（2018年4月1日現在のデータ）という最後の世代交代を迎えていると同時に、新規採用世代（22歳）の減少傾向による人材確保の困難という深刻な課題に直面していることを明らかにした。年間3000名もの社員は採用できないから職場を大胆に合理化するしかない。だからこそ会社は、30年以上連れ添った東労組と決別し、労働組合不要の新しい労務政策に転換した。団体交渉や36協定の遅れ締結といった不安定さにもう煩わされたくないということであろう。

②2020年後半～2021年（ポストコロナを口実に、「変革2027」のスピードアップを訴える）

この頃の労使関係と主な合理化提案（支社提案は含まない）

2020年（令2）4月7日…新型コロナウイルスで日本政府、初の「緊急事態宣言」。

同年7月30日…JR東、2020年4～6月期決算で純損益など全ての損益が会社

発足以来初の赤字

同年10月28日…JR東の2020年度中間決算発表。会社はポストコロナ（鉄道利

用減)を口実に、「変革2027」のスピードアップを訴える。
同年12月24日…「社員の多様な働き方のさらなる推進(乗務経験者の本線乗務拡大)」
提案。

2021年(令3)1月19日…「新幹線電車の台車検査・全般検査周期の変更」説明。
同年3月18日…JR東日本のみ初めて、定期昇給について例年の半分を回答。

同年4月末日…JR東、2020年度期末決算発表。前年度に比べ営業収益を1兆
1820億円減らし、初めて営業損失(約5203億円)・当期純損
失(約5779億円)を計上。

同年5月26日…「現業機関における柔軟な働き方の実現について(「統括センター」
等新設)」提案。

同年9月15日…「乗務員の業務等の見直しについて」提案(分単位のけち臭さで労
働時間から除外)。

同年12月9日…「今後の業務量の示し方」について説明(標準数を示すのではなく
出面数で示す、職制の制限をなくす、作業ダイヤの設定を柔軟にす
る)。

同年12月15日…『変革2027』の実現に向けた組織再編」「柔軟な働き方と多様
な活躍の実現に向けた制度改正」提案。

☆2020年からのコロナ禍において、会社はしばらくその対応に追われ、「変革」
の動きは半年ほど鈍ったかに見えたが、会社は鉄道運輸収入の減少(2020年10
月期で前年度比45・8%)、営業収益の大幅減という状況に、「変革」のスピードアッ
プを訴え、再び大きな合理化案を次々に提案、社員の定期昇給も例年の半分にする
など、社内に衝撃を与えた。

☆2021年5月26日「現業機関における柔軟な働き方の実現について(「統括セン
ター」等新設)」の提案においては会社から、

ア、コロナ禍により時計の針は10年早く回っている(旅客の鉄道離れは元に戻らな
いという危機感)

イ、「JR東グループの成長のために、生き残りをかけて、会社・系統・職場・仕
事の垣根をこえて新たな価値を創造する」「これまでの役割分担にとらわれない
柔軟な働き方を進める」
という情勢認識・会社方針が示された。

☆2021年12月15日には『変革2027』の実現に向けた組織再編」「柔軟な働き
方と多様な活躍の実現に向けた制度改正」を提案。席上、会社は「会社始まって以
来の変革」と公言。「企画部門の業務の一部を現業機関へ移管し、お客様に近い場
所でよりスピーディーに判断するための組織にしていく」。

☆「会社始まって以来の変革」とはどういうことだろうか。1987年の国鉄分割民
営化当時、会社は、国労がそれまで長い闘いの末、国鉄との間で決めてきた労働協

約、現場労使による確認事項など一切の労働条件を引き継ぐことなく白紙にして、新しい就業規則のみでスタートした。とはいえ会社は、「国労つぶし」のため「労使共同宣言」を通じてJR東労組との癒着関係は続けざるを得ず、また、旧来の「現場機関」「職制」「作業ダイヤ」「団交での労働条件（要員数）提示」等の考え方（この中には当然、会社の恣意的運用を制限するものがあつた）を変更する余裕まではなかつたため、ある意味で、国鉄時代の鉄道の運営方法を残してきたと言える。分割民営化で国労を少数派にし、2006年、国労東日本との間でJR発足以降の係争事件を一括和解して国労をおとなくさせたとはいえ、職場には、国労の潜在的な力・影響もいくらかは残っていた。

そこで国鉄世代が退職によりJR職場を去る今の時代こそ「変革」の最後のチャンスとばかり、まずは東労組を崩壊させた。そして社員に占める労働組合加入率がうんと下げ止まっている今、これまで余裕がなく手が付けられなかつた「支社や現場機関の組織再編」「職制」「作業ダイヤ」「標準数」などすべて「柔軟な」運用に改め、そのことによって社員であれば会社には何でも従ってもらう、現場（「お客様に近い場所」）の仕事の間でも支社の仕事も兼務させる態勢を築き、「会社にとって厳しい環境」の中でも人員コストを削減して「収益力を強化」し、「企業体質を強く」していることなのである。

③2022年（二度目のコロナ赤字決算を目の前にして）

☆今年の賃上げ要求に対するJR東の回答（3月17日）は「定昇の昇給係数4」があるだけで、ベースアップやエルダー社員の賃金改善要求等への回答はなかつた。会社は「回答書」の中で、「足元の業績は、新型コロナウイルス感染症再拡大の影響で、一二期連続で通期の赤字を見込む厳しい経営状況」「会社発足から30年以上かけて返済してきた有利子負債が、約1・3兆円増加し、約20年前の水準にまで戻るといふ財務状況の悪化」を理由に、「業績を踏まえれば厳しい判断をせざるを得ない」としながらも、3月12日に統括センター等の発足として始まった「会社発足以来の大きな組織再編」を機に、「変革の主役である社員の力により構造改革が加速することを期待」するとしている。

会社が期待する「構造改革」とは、「統括センター」等に示されるように複数の職場を一つの現業機関に統合し、これまで存在した職制・作業ダイヤ・職場ごとの標準数といった会社にとって邪魔になった垣根を取り払い、「柔軟な働き方」として、乗務員に駅の仕事をさせる、駅の仕事の合間に支社の仕事をさせるといった、何でもやらせる態勢をつくり、少ない社員数で多くの仕事をこなし、「生産性が上がった」と称することである。これは、国鉄時代からJRの今日に至る長い歴史の中で、労働組合と会社の間で丁寧な議論をして積み重ねてきた「鉄道の安全輸送」や「人間らしい働き方」を重視した決まり事を一挙に吹き飛ばしてしまおうという、「鉄道の安全」を本当の意味ではわかかっていないJR採用の会社幹部の浅薄（せんぱく）な思い付きというほかはない。

（森 勉・つづく）

先進諸国における社会主義は

—エンゲルスから核心を学ぶ(3)—

先進諸国には官僚主義を防ぎ、協力して社会主義を実現する条件が

先の稿で挙げた単純にも見える明快な諸原則は、日本でも、他の先進資本主義諸国でも、国家権力をめぐる闘いに勝利した労働者階級にとつては、容易に実行することのできる条件が十分に成熟している。資本主義の長い発展自体が、その条件を整備している。

あらゆる分野での、随時の解任制を伴う選挙制を基本とする民主主義は、労働者階級の前進を恐れる資本家階級によって絶えず矮小化され、金力によって形骸化されているが、労働者はそれと闘うなかで、どうすべきかを知っている。

今日の大臣や高級官僚や外郭団体の理事等が高給を取るのには、資本家階級の代理人として、ある意味では当然とされながらも、あまりの格差に、マスメディアは税金の無駄遣いとして報じ、労働者の怒りは大きくなっている。自分達が国家権力を掌握し、新しい国家を組織するときには、「あらゆる職務にたいしてほかの労働者なみの賃金しか」払うべきでないことを認識するようになっていく。国会議員などについても同様である。

教育・知識水準の向上は、誰でも行政や企業の管理に参加できる条件を作っている。生産力の発展は、労働時間の短縮とともに、個人が素質を全面的に発達させ、関心のある分野で素質を全面的にためてみる機会を与えることができる。いかなる場合でも、生産手段の所有者(社会的共有者)として、失業とは無縁なかたちで。

これらのことは、社会主義を実現する上で労働者階級国家のとるべき諸原則を堅持・実行しやすくしている。ソ連や中国等の失敗を見て、斎藤幸平君や小ブルジョアインテリのように「熱さにこりてナマスを吹く」には及ばない。

労働者階級の勝利に不可欠な国際協力

ソ連等は崩壊したが、「米国一極支配」も崩壊するとともに、エンゲルスの次の言葉があらためて想起される。

「ヨーロッパの労働者階級の勝利はイギリスのみにかかっているのではない。それは、少なくとも、イギリス、フランスおよびドイツの協力によって初めて確保することができるのである。」(『イギリス版への序文』、同上『空想より科学へ』107頁)

「フランス人も、ドイツ人も、イギリス人も、単独で資本主義を壊滅させたという名誉をになうことはないでしょう。もしフランスが—もしくは—合図を出すとするば、闘争が決定されるのは、最も根底的に社会主義のはたらきかけをうけていて、その理論が最も奥深く大衆のあいだに浸透している国、ドイツにおいてでしょう。それでも、イギリスがブルジョアジーの手に残されているかぎり、フランスも、ドイツも、終局的に勝利を確保したことにはならないでしょう。」(『エンゲルスからポール

・ラファルグへ』全集第39巻78〜79頁)

『資本論』が数年前からドイツで再び売れ出したことが報ぜられている。近年のドイツでは各州の大学で『資本論』を読む運動が起っているという。左翼党・社会民主主義研究連盟はパンフレット『マルクス再発見』を発行し、全国の学生に『資本論』を読むキャンペーンを始め、すでに多くの読会サークルがつけられている。

イギリスでも左派の運動が活発化していることが報ぜられている。

フランスでは台頭する極右勢力に勝つほどに、左派勢力が伸びている。

日本では『人新世の「資本論」』などという本が何十万部も売れていて、資本主義が労働者国民にいかん犠牲を強いる時代になっているか、人々がいかに新しい社会を模索しているかを示している。真に新しい時代を切り開くにはこのような『資本論』の核心を捨て去った斎藤君の本ではなく、マルクス・向坂の本物の『資本論』が読まなくてはならないこと、その読書会が全国につくられるべきことを教えている。

日本の現状を見ると ― 正しい綱領の重要性

日本では、共産党の綱領を見ると、「現在、日本社会が必要としている変革は、社会主義革命ではなく、…：民主主義革命である」と規定し、残念ながら労働者階級の権力の確立も社会主義革命も消し去ってしまい、民主主義革命の先には構造改革的な社会化論を主張している。

社民党の綱領的文書を見ると、「市場の民主化や監視・規制に取り組みます」、「労働分野の規制緩和を許さず」など、新自由主義と新保守主義にたいする闘いで終わっていて、憲法第9条や25条の擁護等は別として、新自由主義が破綻した後には、その先の目標がほとんどみられない。

一方ではまだ小さいながら、綱領で、科学的社会主義に基づいて、平和革命による民主的な新しい社会主義の目標を鮮明にし、戦争と失業に反対し憲法を生かす共同戦線と呼びかけ、反独占反自民の共同戦線政府をやがて社会主義政権に発展させようとしている新社会党がある。

綱領についてエンゲルスはこんなことも書いている。

「正しい綱領をもって一時的に少数派のなかにいるということ―組織として―は、綱領なしで多数ではあってもほとんど名目的な外観的所屬員をもっているということよりも、つねにまさっているのです。われわれはわれわれの全生涯をつうじて少数派のなかにいましたが、それでもたいへん居心地がよかったです。」(『エンゲルスからベルンシュタインへ』全集第35巻352頁)

新社会党の仲間が味わうべき言葉である。

いまもしマルクス、エンゲルスが生きていれば、英、仏、独を抜くほどに発展した生産力を持ち、米国のビッグスリーをも打ち負かした日本資本主義をどのように認識し、それと闘う我々を見て、どのような助言と忠告を与えてくれるであろうか。

(原野人)

待望の書

『牙を抜かれたマルクス主義』

齋藤幸平とマルクス・向坂・資本論』(原野人著)のすすめ

原野人さんの表題の本が時潮社より発刊された。原さんは新社会党の結党に尽力され、理論担当の中執として新社会党の基礎作りに貢献された。マルクス主義者の立場から、社会主義、原発問題などに関する論文を精力的に執筆され、『社会通信』誌には、ほぼ毎号掲載されてきた。

私は原さんの論文に励まされ、学習意欲も駆り立てられてきた一人である。毎号印刷してまとめて常に読めるように整理している。友人が『社会通信』は科学的社会主義を学ぶ教材として最適だと言われた。原さんはマルクス主義に確信を持ち、向坂逸郎の理論と実践、教えを大切にされている。それぞれの論文には原さんの情熱が詰まっている。

そして、私に好都合なのは文章が明快で分かりやすいことである。誤った理論に對しては容赦なく単刀直入に批判を加え、正しい方向へ導こうとする姿勢と労働者には優しく語り掛けるという配慮は、生前の向坂逸郎の態度を彷彿させる。

本書は『社会通信』に掲載された論文を基として整理されているが、課題ごとに整理され内容もさることながら、原さんの社会主義者としての人間味を知ることが出来る。社会主義、マルクス・レーニン主義という文字や言葉さえ脇に追いやられようとしている現代において、社会主義に対する執念というものを感ぜざるをえない。

混乱する政治・経済情勢のなかで、労働者階級の組織づくりに悩んでいるのは私だけではないはずである。多くの労働者に読んでいただき労働運動・社会主義運動の前進の一助にして頂きたい本である。是非、仲間に広げてほしいと願っている。

(山下俊幸)

待望の書

牙を抜かれたマルクス主義

齋藤幸平とマルクス・向坂・資本論

原野人 著

本書の主な内容

序

第1章 牙を抜かれたマルクス主義

第2章 小ブルジョアインテリの夢想

第3章 科学的社会主義は必ずよみがえる

あとがき

定価 2,200円+税

▼注文はもよりの書店へ

▼10冊以上の注文は時潮社へ

1冊税込みで 2,200円 (+送料)

時潮社 東京都板橋区前野町 4-62-15

TEL (03) 5915 - 9046 FAX (03) 5970 - 4030

URL <http://www.jichosha.jp>

E-mail kikaku@jichosha.jp

◇読者からのおたより◇

気合い まさに、「待望の書」『牙を抜かれたマルクス主義』（原野人著）。これまで、『社会通信』で読み、私の頭にバラバラに存在している記憶が、いっぺんに蘇って…、繋がって…、不思議と何かが動き出しそうな気分になっていく本。原野人さんの優しさと粘り強さが、向坂先生の優しさ厳しさと重なって、社会主義者として生きてこられた原野さんの想いが、行間からも感じられる。

1970年代の反動の嵐…、総評解体、ソ連の崩壊、小選挙区制、社会党解党…、そのなかで産声を上げた新社会党。25年余、取り組んで来たさまざまな活動…、いろいろな問題が有りながらも 現に踏ん張っておられる新社会党党员や支持者への 原野さんの想いにも、目頭が熱くなる。

次々に出される政府自民党の政策で、意欲を失いかけている私の投稿に対しても（叱咤）激励をくださって…。159頁「なぜ社会主義をめざすか」、政府自民党の資本主意的合理化で、大失業・大合理化時代が到来し、保健所や病院、医療労働者も病床も削減され、一途に医療も崩壊へ…。残り少なくなった人生、エネルギーもかすかな私ですが、心して頑張らなければ！ 何か不思議と気合いが湧き出てくる『牙を抜かれたマルクス主義』、くり返し読み重ね、私も社会主義者の道を歩む一人になれるよう力をつけたい、そんな気持ちになってきています。（宮本嘉峰）

尼ヶ崎メーデー スローガン ▽8時間労働時間を堅持しよう ▽あたりまえの同一労働同一賃金制度の実現 ▽非正規労働者の権利確立、均等待遇を実現しよう ▽未組織労働者を組織しよう ▽最低賃金1500円を実現しよう ▽格差と貧困を是正しろ ▽政治の私物化をやめろ ▽自公政権を転換しよう ▽消費税を引き下げろ ▽物価を引き下げろ ▽プーチンは戦争をやめろ ▽安保法・共謀罪法を廃止させよう ▽憲法9条改悪を許さない大きなうねりを作ろう ▽米軍の普天間基地撤去・辺野古新基地建设を阻止しよう ▽原発再稼働反対・原発のない脱炭素社会を実現しよう ▽尼崎市公共調達基本条例に賃金条項を入れよう

（MAY DAYあまがさき実行委員会・尼ヶ崎地区労働組合人権平和センター）
他人事ではない 2月24日、ロシア軍は突如理由無きウクライナへの侵攻を始め、私たちのコロナ禍で痛む心をさらに傷つけました。みなさんは、ウクライナ民話「てぶくる」をご存知でしょうか。今、この絵本が話題になっています。森に落ちていた手袋の中で、さまざまな動物たちが仲良く過ごす物語です。今起きている戦争は決して他人事ではありません。この機会にぜひ読んでください。一人ひとりが改めて平和について考えることが、今の私たちにできる第一歩なのではないでしょうか。そして、みんなの平和への思いを大きな声にしていきましょう。

暮らしのこと、平和のことなど、みなさまの声をお聞かせください。引き続きご支援をよろしくお願いたします。

（2022年4月 桜花の候 広島県福知山市議会議員 西本章）
隣村宛て郵便に4日も ▽思い出の郵便ポストNo.189（2022年4月1日号）は富山県五箇山相倉集落の丸型郵便ポストです。富山県五箇山相倉集落の中にあります。合掌造りの中にあります。雪は大分少なくなっていました。▽昨年10月から郵便は翌日配達ではなく隣村宛ての郵便も3、4日要すようになりました。更に利用者は減り、減収のツケは配達員の皆さんらの人減らしに拍車（涙）。経営者や管理者は何のお咎めもなし。

▽思い出の郵便ポストNo.190（2022年5月1日号）は、富山県井波の街並みの丸型郵便ポストです。富山県井波彫刻原点瑞泉寺への街並みにあります。

▽昔むかしの話し、5月1日と言えばメーデー。今年にはウクライナ侵攻、コロナ感染拡大の中、いろいろ考えさせられます。岸田首相のいう新しい資本主義では解決できないことはわかっていきますけど。

（長野県飯綱町 山浦隆芳）

☆滋賀の警察・検察・裁判所こそが犯罪者集団だ！

「22春闘まだまだ本番！ 警察・検察は労働組合つぶしをするな！ 4・10滋賀集会」開催
◇県警と大津警察署前経由で抗議のデモも！

2022年4月10日、反弾圧京滋実行委員会主催で連帯ユニオン関西地区生コン支部の不当弾圧を4年前開始し、現在も労働争議の現場に制服警官が出向いて弾圧を継続する滋賀県警と大津地検、それら不当逮捕などを容認してきた大津地裁に抗議する決起集会とデモ行進を行った。

1450万人の命の水源・びわ湖の南岸、大津市なぎさ公園打出の森に結集した全近畿と東海の市民・労働者150人は、午後2時からきょうとユニオン奥坂執行委員の司会のもと集会をスタートさせ、反弾圧京滋実行委員会の西村修共同代表（かんなま勝手連・しが共同代表）の主催者挨拶、当該・関生支部・坂田副委員長の挨拶の後、市民運動の仲間として若狭の原発を考える会の橋田秀美さん、関西合同労組・なかもユニオンなどから闘いの報告、決意を受け、反弾圧大阪実行委員会の大阪全労協・但馬佳子議長の集約、全港湾大阪支部の小林勝委員長のまとめと今後の行動提起を受けた。

かんなま勝手連・しがの稲村守事務局長からは全近畿・東海から遠路、琵琶湖を擁する滋賀県・大津市まで結集いただいたことに謝意を述べ、「憲法28条を蹂躪し、労働組合法を無視抹殺・違反している滋賀県警察本部なканずく刑事部組織犯罪対策課と、公然たる不当労働行為を行う大津地検こそが犯罪者集団ではないか！ 満身の怒りを込めて、22春闘勝利、関生不当弾圧を跳ね返し、階級的戦闘的労働運動再構築めざしてすべての労働者・市民は団結して頑張ろう！」と団結ガンバロウを湖国にとどろかせて、目の前の十階を超えてそびえる滋賀県警本部と200メートル先の大津警察署に怒りのシュプレヒコールを叩きつけながら、1キロメートルの市内デモ行進を行った。（かんなま勝手連・しが 稲村守）

神田神保町へぶらり 志さんより楽しいプレゼントいただきました。神田神保町へぶらりと行った気分になりました。もっと体力がついて、コロナも一段落したら、出かけてみたいものです。

テレビのBS番組では、日本各地、世界各地への旅番組、自然の紹介、市内電車の旅、等々が放映されています。これを録画し、楽しんでいきます。自分の知らない世界を知る思いです。日本ですと、「北海道」に関するものに興味が行っています。第二の故郷だからでしょうね。

今の体力では遠出は無理でしょうから、テレビの映像とともに旅に出ている気分になっています。毎日、机に向かってマルクス・エンゲルス、レーニン、向坂逸郎といった人達の書いた作品と向き合っています。マルクス・エンゲルスを正しく理解するには、レーニン、向坂逸郎といった人の書いたものを読むべきだと、改めて確信する毎日です。レーニンや向坂逸郎といった人達は、マルクス・エンゲルスの理解の仕方を教えてくれていると思います。

向坂先生の『資本論と現代』（1970年刊、法政大学出版社）には、「人間疎外・国家・社会主義」という副題が付けられています。その「あとがき」には、「この論集の読者は、もし暇があったら、岩波文庫の拙訳『資本論』第九分冊の『資本論の解題』を読んでくださると、マルクスの歴史的法則の意義について、いまま少し進んだ理解に達してもらえるのではあるまいか。」と結ばれています。多くの人に、「暇があったら」でなく、「是非とも暇を作って！」読んでみてほしいものです。実は、私は文庫本の『資本論』につきましては、そんな訳で第九分冊を先に購入したことを覚えていきます。

（2022年3月30日 中澤秀行）